

〔科目名〕 対人コミュニケーション	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕
〔担当者〕 植田 栄子(てるこ)	〔オフィス・アワー〕 時間: 場所:	〔授業の方法〕 講義、グループ活動、発表
〔科目の概要〕 人間関係を円滑に構築するための「コミュニケーション入門」クラスである。学生生活・社会生活を充実させる基本要素に良好な対人関係は必須である。当科目では、自己内省および他者理解を進め、人間関係の構築、発展、維持、修復、交渉などに不可欠なコミュニケーション力について、様々なタスクを通して体験的に学ぶ。 コミュニケーション力の養成と内在化のために、講義、DVD 視聴、ワーク、グループ討論、振り返り、まとめ等の演習を通して実践力を養成する。コミュニケーション力の基本となる 1) 情報伝達力と 2) 感情表現力を強化し、言語力を高めると同時に、考察力をよりシャープに深化させる。また、人間学に基づく多様な価値観を学んで自他共にその理解を進め、自分にとって必要な対人コミュニケーション力を学ぶ。さらに、自分の考えを相手に対し、わかりやすく印象的に説明するプレゼンテーション力を向上させる。そのほか、異文化コミュニケーションに対する基本知識を養う。 コミュニケーション力を養うタスクを行いながら、自己分析と他者理解、既成概念の打破、自分の自由な発想や価値観を、自分のことばで表現する楽しさをぜひ実感してもらいたい。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・「なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか」 コミュニケーション力の向上は、学生生活を充実させ、人間関係を豊かにする基本である。さらに、専門の経営学・経済学を個人や組織の中で生かしていくには、自己分析と他者理解に基づく対人コミュニケーション力、プレゼンテーション力、リーダーシップ力、グループワーク力が重要である。 単なるスキル習得だけに留まらない人間力としての「対人コミュニケーション力」を着実に高めていくことで、将来の面接、就活、ビジネス交渉、社会参加、社会貢献、コミュニティ作りなどにおいて役立つ。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 ①対人コミュニケーションに関する基礎概念を学び、現実の場面での実践力を養成する。 ②自己分析と他者理解を深め、自他を尊重する聴き方および効果的な発表表現方法を学ぶ。 ③グループ活動や様々なディスカッションを通して、対人コミュニケーション力の源となる創造的・積極的・共感的な「探究心」「人間力」、「対話力」、「プレゼンテーション力」を高める。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 多様なタスク活動を通して、対人コミュニケーション力の向上を受講生は実感している。毎回のコメントシート記入を通して、自己分析力・表現力・言語力が向上し、多くの苦手意識を持っていた受講生が自信を持ってコミュニケーション力の向上を実感できている。タスクが契機となって、相互交流の場が生まれ、様々なタスクが人間関係を広げる貴重な経験となり自発的に継続を決意するという成果が上がっている。グループ分けを複数回慎重に行っている。		
〔教科書〕 『対人コミュニケーションの人間学： エニアグラムで学ぶ自己分析と他者理解』（丸善） 1回目に持参すること。 =>〔注意〕 なお初版ではなく、2022 年 1 月発売以降の重版を使用する。初版ではないので注意すること。		
〔指定図書〕 追って指示		
〔参考書〕 追って指示		
〔前提科目〕 なし		

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) ・グループワーク、コメントシート記入、話し合いを行う。恥ずかしがらず積極的に取り組んでほしい。 ・体験型学習が主であり出席重視。意欲的にプレゼンテーションなどで成果を上げるとボーナス点が加わる。 ・評価は総合的に行う。なお、開講後の状況により、スケジュールは前後したり修正したりすることもある。	
〔評価の基準及びスケール〕 クラスへの参加度（出席、課題提出、発表：40%）、期末レポート（40%）、コメントシート（20%） 特に出席重視。欠席3回までは成績評価の対象で、それ以上の欠席は減点もしくは評価不可となる。 やむを得ない理由や公欠などの場合は、事前・事後でも必ず申告し、欠席届を提出すること。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 コミュニケーション力がアップすると、大学での人間関係、さらにはその後の就職活動・社会生活、仕事、そして自分の未来の状況が、どんどん好転していきます。 苦手意識を持っている人が多いだけに、ぜひ勇気を出して他者と交流するコミュニケーションの醍醐味を味わってください。自分のことを話し、他の人の話を聞いて、お互いが深く知り合う楽しさを味わってください。 今のあなたより、確実により積極的に人との関係性を深めていけるようになります。 いろいろな面から、人とのコミュニケーションのコツを掴んでいってください ・与えられた課題以外のおしゃべり、他教科の内職、指示以外のスマホ使用など授業に関係ないことは厳禁。 ・受講態度が他の学生にとって迷惑行為となる場合、退室等の処置をとります。	
〔実務経歴〕 海外大学での教育研究活動以外の実務経歴(現地の商工会議所など異文化との交渉にかかる実践経験)等を活かし、自己及び他者との関係の分析、構築、発展、維持、修復、交渉などのコミュニケーション力を修得する授業です。	
授業スケジュール	
第1回	テーマ：コミュニケーションとは何か 内 容：①初対面のペアワーク（共通点探し）、②単語当てゲーム（母音のみの発話、無音での発話） 課題：挨拶タスク
第2回	テーマ：コミュニケーションの基礎概念 内 容：①コミュニケーションの構成要素の意識化、②日本人のコミュニケーションの特徴および異文化的視点 ＊DVD 視聴：NHK「Cool Japan ニッポン人への大ギモン」
第3回	テーマ：コミュニケーションの構成要素 内 容：①言語的コミュニケーション ②非言語的コミュニケーション・非言語の重要性確認 ＊DVD 視聴：NHK「A to Z 問われる日本人の言語力」（前半） ★非言語コミュニケーションタスク
第4回	テーマ：「言語力」・「コミュニケーション力」とはなにか 内 容：①自己の言語の意識化（敬語・友だち言葉・標準語・方言・男性語・女性語・非言語） ★問答ゲームタスク ★抽象画説明タスク ○課題：エニアグラムのチェックシート記入
第5回	テーマ：よりよい対人コミュニケーションのために①：人間学「エニアグラム」紹介 内 容：①第一印象の構成要素に対する意識化 ★第一印象ゲームタスク ②人間学「エニアグラム」による9タイプの性格と自分に関する分析
第6回	テーマ：よりよい対人コミュニケーションのために②：人間学「エニアグラム」の基礎 内 容：①人間学「エニアグラム」に基づくグループ討論（同一・類似のタイプ）、②自己分析 ③自己紹介タスク・スピーチ ★短文による描画タスク
第7回	テーマ：よりよい対人コミュニケーションのために③：人間学「エニアグラム」の応用 内 容：①人間学「エニアグラム」に基づくグループ討論（多彩なタイプ）、②自己分析 ＊DVD 視聴：NHK「A to Z 問われる日本人の言語力」（続き）

第8回	テーマ: よりよい対人コミュニケーションのために④: 人間学「エニアグラム」の活用 (囚われ) 内 容: ①人間学「エニアグラム」に基づく自己の開示と他者への共感: 「囚われ」を知る ★エピソードを交えて話し、共感的に傾聴するタスク ★自己紹介の1分間&2分間のスピーチタスク
第9回	テーマ: よりよい対人コミュニケーションのために⑤: 伝言力アップの確認練習 (伝言1回目) 内 容: ①伝言タスクの実践 ②伝言タスクの検証 ★伝言タスク (1回目) ★自分の部屋を言葉のみで説明するタスク ★自己紹介の3分間スピーチタスク
第10回	テーマ: よりよい対人コミュニケーションのために⑥: 伝言力アップの実践練習 (伝言2回目) 内 容: ① 伝言による誤解・情報変化のメカニズム ②「事実を伝える力」の応用 ★伝言タスク (2回目) ○課題レポート: 授業内で指示
第11回	テーマ: よりよい対人コミュニケーションのために⑦: 相手と目的を考えたプレゼンテーション 内 容: ①トピックに関して伝えたい内容の確認、エピソードの選択 ★多数決ではない徹底討論タスク ★青森公立大学をPRするプレゼンテーション・タスク
第12回	テーマ: プレゼンテーション力を磨く「事実を伝えるコミュニケーション力」 内 容: ①誰に・何を・理由をあげてプレゼンテーションする ②他の人のプレゼンテーションを分析して助言 *DVD視聴「脱! 話ベタ 伝える力をつける!」(前半) ★「事実」を理由も入れて伝えるプレゼンテーション・タスク ○課題: 期末レポート
第13回	テーマ: プレゼンテーション力を磨く「事実を伝えるコミュニケーション力」 内 容: ①誰に・何を・理由をあげてプレゼンテーションする ②他の人のプレゼンテーションを分析して助言 *DVD視聴「脱! 話ベタ 伝える力をつける!」(前半) ★「事実」を理由も入れて伝えるプレゼンテーション・タスク ○課題: 期末レポート
第14回	テーマ: プレゼンテーション力を磨く「事実を伝えるコミュニケーション力」 内 容: 小グループで相互発表、相互評価。クラス発表。
第15回	テーマ: プレゼンテーション力を磨く「事実を伝えるコミュニケーション力」 内 容: 結果発表。○課題: 期末レポート
試 験	試験ではなく期末レポートを成績評価の対象の一部とする。レポートに他人の記述のコピーなど不正が認められた場合は、不可となる。